

デーヴォ ガイド



2026.5.25-31

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (1~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い (なるべく短く)
- ④預言の祈り (主の御心を宣言して祈り) をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか? (または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

8:1 次に、偶像に献げた肉についてですが、「私たちはみな知識を持っている」ということは分かっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人を育てます。

8:2 自分は何かを知っていると思う人がいたら、その人は、知るべきほどのことをまだ知らないのです。

8:3 しかし、だれかが神を愛するなら、その人は神に知られています。

8:4 さて、偶像に献げた肉を食べることについてですが、「世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない」ことを私たちは知っています。

8:5 というのは、多くの神々や多くの主があるとされているように、たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、

8:6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものはおられ、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によってすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです。

8:7 しかし、すべての人にこの知識があるわけではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんできたため、偶像に献げられた肉として食べて、その弱い良心が汚されてしまいます。

8:8 しかし、私たちを神の御前に立たせるのは食物ではありません。食べなくても損にならないし、食べても得になりません。

8:9 ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように気をつけなさい。

8:10 知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、その人はそれに後押しされて、その良心は弱いのに、偶像の神に献げた肉を食べようにならないでしょうか。

8:11 つまり、その弱い人は、あなたの知識によって滅びることになります。この兄弟のためにも、キリストは死んでくださったのです。

8:12 あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。

8:13 ですから、食物が私の兄弟をつまずかせるのなら、兄弟をつまずかせないために、私は今後、決して肉を食べません。

コリントのような異教の街に住む者は常に偶像とのせめぎ合いになりました。食品も偶像にさげられたものが口に入ることがあったので、そのことは是非が議論になっていたのです。知識のある人は「世の偶像の神は実際には存在せず」と知っているのに気にしないが、「信仰の弱い人」は何か偶像の影響があるのではないかと恐れて（または気持ち悪くて）食べないというのです。

しかしここで大切なことをパウロは冒頭に語ります。「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建て」というのです。神学的に問題ないという知識があっても、それを押し通すのではなく、愛をもって信仰の弱い人に配慮し、その信仰に悪影響を与えないようにしてあげるのが、つまりつまずきを与えないようにすることが最も大切なことであるということです。

クリスチャンであっても未だに偶像断ち切れない人も弱いと言えますが、偶像を断ち切った後も何か偶像を気にしてしまう人もいて、そういう人

をパウロは「弱い人たち」と表現します。そのような人々の「つまずきとならないように、気をつけなさい。」とパウロは愛によって語っています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 火曜

コリント I



9:1 私には自由がないのですか。私は使徒ではないのですか。私は私たちの主イエスを見なかったのですか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。

9:2 たとえ私がほかの人々に対しては使徒でなくても、少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、私が主にあって使徒であることの証印です。

9:3 私をさばく人々に対して、私は次のように弁明します。

9:4 私たちには食べたり飲んだりする権利がないのですか。

9:5 私たちには、ほかの使徒たち、主の兄弟たちや、ケファのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。

9:6 あるいは、私とバルナバだけには、生活のために働かなくてもよいという権利がないのですか。

9:7 はたして、自分の費用で兵役に服す人がいるでしょうか。自分でぶどう園を造りながら、その実を食べない人がいるでしょうか。羊の群れを飼いながら、その乳を飲まない人がいるでしょうか。

9:8 私がこのようなことを言うのは、人間の考えによるのでしょうか。律法も同じことを言うてはいないでしょうか。

9:9 モーセの律法には「脱穀をしている牛に口籠をはめてはならない」と書いてあります。はたして神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。

9:10 私たちのために言うておられるのではありませんか。そうです。私たちのために書かれています。なぜなら、耕す者が望みを

持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をするのは、当然だからです。

次にパウロは献身と報酬について述べます。パウロはピリピの教会からは献金によって支えられることを「霊的祝福」として喜びましたが、コリント教会からは何も受けませんでした。コリント教会の信仰がまだ成熟していなかったからです。

しかしそれでコリントの人々の中には、パウロが献金を受けていないのは使徒ではないからだ、その權威を疑う人もいました。ほかの使徒たちは生活のための仕事をやめて、献金によって生活していたからです。

それに対してパウロは自分にはその権利があるということを、言っています。つまり兵士、農夫、そして「私たちのために」書いてあるという聖書の箇所、「穀物をこなしている牛」を例にあげて主張しています。

主のために奉仕する者はすばらしい報酬にあずかる権利があるので、それを否定する必要はありません。ある人は経済的な面で、また霊的な祝福で、さらには生活などの面で、さまざまに祝福があるのです。

それとともに、その権利を用いなくて耐え忍ぶ人を尊重する必要もあります。彼らは決してその権利がないのではなく、主の栄光のために判断しているのです。またもししたら私たちの信仰の足りなさゆえに、その人に負担をかけたままでいるのかもしれない。

パウロのように主のために忍んでいる人を尊重し、またその重荷を担い合しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 27日 水曜

コリント I



9:11 私たちがあなたがたに御霊のものを蒔いたのなら、あなたがたから物質的なものを刈り取ることは、行き過ぎでしょうか。

9:12 ほかの人々があなたがたに対する権利にあずかっているのなら、私たちは、なおさらそうではありませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。むしろ、キリストの福音に対し何の妨げにもならないように、すべてのことを耐え忍んでいます。

9:13 あなたがたは、宮に奉仕している者が宮から下がる物を食べ、祭壇に仕える者が祭壇のささげ物にあずかることを知らないのですか。

9:14 同じように主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活の支えを得るように定めておられます。

9:15 しかし、私はこれらの権利の一つも用いませんでした。また、私は権利を用いたくて、このように書いているのでもありません。それを用いるよりは死んだほうがましです。私の誇りを空しいものにするのは、だれにもできません。

9:16 私が福音を宣べ伝えても、私の誇りにはなりません。そうせずにはいられないのです。福音を宣べ伝えないなら、私はわざわいです。

9:17 私が自発的にそれをしているなら、報いがあります。自発的にするのでないとしても、それは私に務めとして委ねられているのです。

9:18 では、私にどんな報いがあるのでしょうか。それは、福音を宣べ伝えるときに無報酬で福音を提供し、福音宣教によって得る自分の権利を用いない、ということです。

一定の部分を受け取るように神様は定められました。そして祭司たちはそれらを売るなどして生活をしていました。またここでの記述にあるように、主イエスは、フルタイムの働き人たちには「福音の働きから生活のささえを得るように」ご命令なさったようです。そして実際そのようにして教会・宣教が成り立ってきました。

しかしパウロは、「私はこれらの権利の一つも用いませんでした。」と語ります。第一にそれは誇りだからです。報酬を求めないことがパウロの誇りであって、それは自分が報酬のためではなく主のために働いているという証となるからでしょう。

第二にそれは義務であるからです。主から永遠の救いと救いをいただいたので、それを人に伝えるのは特別にすばらしい働きというよりも、当たり前なすべきことと考えたのです。

第三にそれは無報酬の満足感です。無報酬であることによって、報酬を受けるときの喜びよりも、伝えるときや救われるときの喜びを際立たせたいとの思いがあったのでしよう。

主のために働く者に主は良いものを惜しまれません。しかしまた私たちは「報いがなくても主のために働くのだ」という決心、主が喜ばれることが私の満足だという思いが必要です。それは主を愛するということなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 木曜

コリント I

9:19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。

9:20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人たちには——私自身は律法の下にはいませんが——律法の下にある者のようになりました。律法の下にある人たちを獲得するためです。

9:21 律法を持たない人たちには——私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが——律法を持たない者のようになりました。律法を持たない人たちを獲得するためです。

9:22 弱い人たちには、弱い者になりました。弱い人たちを獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。

9:23 私は福音のためにあらゆることをしています。私も福音の恵みをと共に受ける者となるためです。

9:24 競技場で走る人たちはみな走っても、賞を受けるのは一人だけだということを、あなたがたは知らないのですか。ですから、あなたがたも賞を得られるように走りなさい。

9:25 競技をする人は、あらゆることに調節します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

9:26 ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません。

9:27 むしろ、私は自分のからだを打ちたい



て服従させます。ほかの人に宣傳しておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。

これまで述べて来たことをまとめるようにして、パウロは自分の生き方を宣言しています。相手がどんな人であれ、その人の立場に自分の身を置くということです。割礼のある人となない人、結婚している人としていない人、奴隷と自由人、偶像の肉を食べる人とそれを気にする人、フルタイムの使徒とそれを支える教会員、権利を行使する人となない人などなど、同じクリスチャンといってもあらゆる立場・状態の人がいます。パウロはここで全てのクリスチャンに共通する大切な生き方を教えているのです。

そしてそれは伝道にも言えることです。相手の心を思いやり、その立場に立たなければ、愛の心を伝えることはできませんし、十字架のメッセージから愛を伝えることはできません。

しかしここで忘れてはならない大切なことは、ノンクリスチャンや世の中に妥協して、自分の身を固めるのとは全く違うということです。自分はむしろ奴隷のようになることなのです。ノンクリスチャンに妥協して楽になることではありません。むしろ「自分のからだを打ちたい従わせず。」というように、苦しい努力が求められるのです。

人生にあって私たちは楽にしていれば良いということは少なく、むしろリスクを負って挑戦して勝利を勝ち取って行かなければならないことが多いのです。ならばパウロのように「朽ちない冠を受けるために」、働きの「失格者」とならないように、自分を「従わせて」行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 29日 金曜

コリント I

10:1 兄弟たち。あなたがたには知らずにいてほしくありません。私たちの先祖はみな雲の下にいて、みな海を通過して行きました。
10:2 そしてみな、雲の中と海の中で、モーセにつくバプテスマを受け、
10:3 みな、同じ霊的な食べ物を食べ、
10:4 みな、同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らについて来た霊的な岩から飲んだのです。その岩とはキリストです。
10:5 しかし、彼らの大部分は神のみこころにかなわず、荒野で滅ぼされました。
10:6 これらのことは、私たちが戒める実例として起こったのです。彼らが貪ったように、私たちが悪を貪ることのないようにするためです。
10:7 あなたがたは、彼らのうちのある人たちのように、偶像礼拝者になってはいけません。聖書には「民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた」と書いてあります。
10:8 また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、淫らなことを行うことのないようにしましょう。彼らはそれをして一日に二万三千人が倒れて死にました。
10:9 また私たちは、彼らのうちのある人たちがしたように、キリストを試みることのないようにしましょう。彼らは蛇によって滅んでいきました。
10:10 また、彼らのうちのある人たちがしたように、不平を言うてはいけません。彼らは滅ぼす者によって滅ぼされました。
10:11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とする



ためです。

10:12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。

10:13 あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。

8章から始まった偶像の問題がまだテーマとして続いているというのが、多くの註解者たちの見解です。(前章は、「偶像に関連する問題も信仰の自由」いう人々に対して、本当の自由とは何かを説いており、その流れで働き人の報酬や宣教についての真理にも触れていたのです。)

偶像礼拝を警戒させるために、イスラエルの過去について思い起こさせています。教会が1つであるように、イスラエルも1つでしたが、神のみこころにかなわず滅ぼされたのです。それは偶像礼拝のためでした。

クリスチャンで像を拝む人はほとんどいないでしょうが、神以外のものを神の位置に置いてしまえば偶像礼拝ということになるでしょう。偶像を拝むのは自分の願望・欲得のためですから、神以外のものを神のようにしてしまうときも、同じように願望・欲得がまさっていないか、警戒する必要があります。イスラエルのように姦淫、主を試す、つぶやくなどということがないかどうか警戒しましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(気持や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



30日 土曜

コリント I



10:14 ですから、私の愛する者たちよ、偶像礼拝を避けなさい。

10:15 私は賢い人たちに話すように話します。私の言うことを判断してください。

10:16 私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。

10:17 パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。

10:18 肉によるイスラエルのことを考えてみなさい。ささげ物を食する者は、祭壇の交わりにあずかることになることはありませんか。

10:19 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像に献げた肉に何か意味があるとか、偶像に何か意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。

10:20 むしろ、彼らが献げる物は、神ではなくて悪霊に献げられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。

10:21 あなたがたは、主の杯を飲みながら、悪霊の杯を飲むことはできません。主の食卓にあずかりながら、悪霊の食卓にあずかることはできません。

10:22 それとも、私たちは主のねたみを引き起こすつもりなのですか。私たちは主よりも強い者なのですか。

偶像との実際的な関わりについてパウロは警戒を促します。特に偶像にささげられた肉についてです。ささげられたからと言って、それで肉の状態そのものが変わるわけではありませんから、何も問題がな

いようにも思えますが、パウロは悪霊との関わりに線引きができなくなることを警戒するようにと戒めています。

偶像とはただの物体ですから、何もない空虚なものです。しかしその偶像を用いて悪霊が人間に影響力を行使するのです。「クリスチャンには何も禁じられていないから」と言って、無差別に受け入れることは危険です。偶像や世の悪しき習慣を無警戒で受け入れるのではなく、信仰や救いに害にならないかどうか、吟味して判断しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 日曜

コリント I

10:23 「すべてのことが許されている」と言いますが、すべてのことが益になるわけではありません。「すべてのことが許されている」と言いますが、すべてのことが人を育てるとはかぎりません。

10:24 だれでも、自分の利益を求めず、ほかの人の利益を求めなさい。

10:25 市場で売っている肉はどれでも、良心の問題を問うことをせずに食べなさい。

10:26 地とそこに満ちているものは、主のものだからです。

10:27 あなたがたが、信仰のないだれかに招待されて、そこに行きたいと思うときには、自分の前に出される物はどれも、良心の問題を問うことをせずに食べなさい。

10:28 しかし、だれかがあなたがたに「これは偶像に献げた肉です」と言うなら、そう知らせてくれた人のため、また良心のために、食べてはいけません。

10:29 良心と言っているのは、あなた自身の良心ではなく、知らせてくれた人の良心です。私の自由が、どうしてほかの人の良心によってさばかれるでしょうか。

10:30 もし私が感謝して食べるなら、どうして私が感謝する物のために悪く言われるのでしょうか。

10:31 こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい。

10:32 ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、つまずきを与えない者になりなさい。

10:33 私も、人々が救われるために、自分の



利益ではなく多くの人々の利益を求め、すべてのことですべての人を喜ばせようと努めているのです。

「自分の利益を求めず、ほかの人の利益を求めなさい。」という生き方はクリスチアンの基本です。偶像に関しても同じことが言えます。自分の信仰だけを考えるなら、偶像にささげられたものを食べても、それで害を受けるということはないでしょう。しかし、信仰というものを外的にとらえる習慣からまだ抜け出せない人は、それが苦になって、不快感や不信感を抱く場合があるというのです。人の心を思いやるという観点からも、偶像との関わりは極力気をつけるべきです。

ここでパウロは偶像問題以外にも共通の、黄金律を示します。それは「何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい。」ということです。これはクリスチアンのすべての動機となるべきものです。神に救われて神を愛する者は、「許可されているかどうか」、すなわち「許可されている範囲で、自分の好きなことをしたい」というような、自己目的的な律法主義の生き方をしません。クリスチアンなら誰もが、神様の栄光が表されたらうれしくなります。それを動機として生きるものなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

